

## コペアレンティング：子育て研究におけるもうひとつの枠組み

加藤道代\*  
黒澤泰\*\*  
神谷哲司\*\*\*

本稿は、コペアレンティング研究を概観し、用語の定義、コペアレンティングに関連する要因(家族、親、子ども、夫婦関係要因)と、子どもの発達に伴うコペアレンティングの変化についてまとめることを目的とした。コペアレンティングは、ペアレンティング(親子関係)や夫婦関係とは区別される家庭内サブシステムのひとつである。広義には、「その子どもの世話と養育に責任を負う複数の養育者によって共有される行為(McHale & Lindahl, 2011)」と定義され、多様な家族システムに適用可能な概念である。コペアレンティングの枠組みは、家族三者関係をとらえ、家族機能を理解する上で有効であり、日本における今後の子育て研究に必要な視点と思われる。

**キーワード：コペアレンティング、子育て、家族システム**

### 1. 問題と目的

“子どもが育つこと”や“子どもを育てること”というテーマは、親-子の相互関係、親子双方もしくは各々にかかわる対人関係システム、さらにそれらを取り巻く環境システム、社会、文化、時代等の多水準システムの視点をもってアプローチすることが求められる。しかも、親-子という役割関係は、乳幼児期、児童期、思春期・青年期等、子どもの発達に伴う時間軸の中で変容し得る関係であり、子どもが原家族を離れて築いた家族に子どもが生まれれば、祖父母(親)-親(子)という新たな役割を加えた世代構造を呈する。こうして考えると、時間と文脈という相互関連要因の影響下に生じる親-子という関係性のダイナミズムをとらえることは果てのない挑戦のように思えてくる。

その挑戦の一端として、過去20年間の米国では“コペアレンティング(coparenting)”に関する研究が急速に増加してきた。コペアレンティングは、「両親が親としての役割をどのように一緒に行うかということ(Feinberg, 2003)」, さらに広くは「その子どもの世話と養育に責任を負うべき複数の養育者が共有する行為(McHale & Lindahl, 2011)」と示されている。

理論的な流れを辿ると、ひとつには、S. Minuchin (1974)の構造派家族療法など、家族臨床現場

---

\*教育学研究科 教授  
\*\*教育学研究科 教育研究支援者  
\*\*\*教育学研究科 准教授

の記述に源を見出すことができる。そこでは、家族は複数の異なるサブシステム（夫婦、父母、親子（父子・母子）、きょうだい等）からなり、それらは互いに関係し合いながらも同時に区別されるととらえられている。もうひとつの研究の流れは、離婚家庭の記述である。1970年代の米国では、離婚家庭の急増を背景として、子どもの不適応や深刻な行動上の問題が懸念され、離婚後の父親と母親が共同養育関係を継続する動きが拡大した（Maccoby, Depner & Mnookin, 1990）。離婚後の子どもへのかかわりにおいて、元夫婦間のルールが一致していなかったり、子どもに対する期待が背反していたりすると、子どもは両者の間に挟まれて葛藤状態となる。しかしそれとは逆に、元夫婦が親役割や子どものことに関してコミュニケーションをとることができると、子どもの発達はそれほど損なわれることがない（Kline, Johnston, & Tschann, 1991; Cowan & McHale, 1996; Pruett, Williams, Insabella, & Little, 2003）。夫婦関係を解消した後のコペアレンティング関係に関する研究の流れは、現在も積極的に継続されている（例えば、Dush, Kotila, & Schoppe-Sullivan, 2011）。従ってコペアレンティングを行う共同養育者（coparents）とは、最初から必ずしも法廷婚の夫妻関係のみに限定されていたわけではなく、コペアレンティング研究は、様々な臨床現場の知見と家族システム理論が組み合わさりながら発展したということができる。

これに対して、ふたり親家族の機能に関する研究は、長い間、母子の二者関係、とりわけ、母親から子どもへの発達の影響の理解に膨大な努力が払われていた。子どもの発達に大きな影響を与える父親の存在の指摘（Lamb, 1975）や、母子二者関係研究への偏重に関する指摘（P. Minuchin, 1985）を受けながら、コペアレンティング概念がふたり親家庭に“導入”され、父親・母親・子どもの三者関係の理解のために研究が進み始めるのは、1990年代半ばのことである（Gable, Belsky & Crnic, 1995; McHale, 1995）。そして、臨床対象でもなく離婚家庭でもないサンプルにおいても、相互にサポートが低く阻害的なコペアレンティング関係にある夫婦の子育ては子どもにとって悪影響となるという結果が示された。

子育てをめぐる夫婦を対象としたわが国の研究を概観すると、家事・育児の分担や役割の相互調整を扱った研究（神谷・菊池, 2004; 青木, 2009a）、仕事と家庭の両立葛藤に向けた夫婦による対処行動の研究（加藤・金井, 2006; 小堀, 2010; 黒澤, 2011）があげられる。いずれも子育て生活における夫婦関係を扱っているが、子どもに対する実際的なかかわりの協働やその調整については検討されていない。他方、子どもとのかかわりに関しては、父親は概ね母親に対する支援者として位置づけられており、夫婦間で子育てのための調整行動が双方向的に行われている可能性が十分には想定されていない。また、子育て研究の多くは乳幼児期に集中しており、子どもの成長発達に伴い子どもへのかかわりの質が変化する中で、夫婦がどのように“父母として、ともに”子育てにあたっているのかという、ふたり親夫婦家庭のコペアレンティング（以下、夫婦ペアレンティング）の実態を明らかにしようとするとりくみも十分とは言えない（加藤・黒澤・神谷, 2012）。

本稿は、日本における今後の夫婦ペアレンティング研究の参考とするために、米国のコペアレンティング研究の動向を概観し整理することを目的とする。ただしその際、ふたり親家庭に特化することなく、コペアレンティングの定義と概念から遡って確認していきたい。なお、本稿をまとめる

上で、コペアレンティングに関する最近のレビューである McHale & Lindahl (2011) および青木 (2009b) を全体的に参照した。

## 2. コペアレンティングの定義

### (1) 共同養育者 (coparents)

先述のとおり、臨床的視点から想定される共同養育者は、必ずしも生物学的な父親と母親に限定されていない。実の親についての情報や接触のない子どもであっても、その養育のために協力して働き、重要な役割と責任をもつ複数の者が存在すれば、それは子どもにとっての共同養育者である。

そうした拡大的な共同養育者の定義として、Talbot & McHale (2004) は、「その子どものために養育責任を共有するような、子どもと一緒に養育する2人以上の大人によって行われる営み」と示し、親であるか否かを除外している。また Van Egeren & Hawkins (2004) においては、共同養育者同士が、婚姻関係、非婚姻関係、離婚カップル、性別にかかわらずとし、子どもが養育者の実子であるか否か、養育者同士が恋愛関係であるか否かの基準も外されている。これらを踏まえると、共同養育者には、家族から離れて里親に育てられる子どもにとっての実の親と育ての親の関係や、拡大家族における母親と同居する祖父母、若年妊娠の母(娘)と祖母(実母)などの養育関係も含まれることになる。さらには、育児が集団に任されているような文化の存在を含める可能性も示唆されている (Van Egeren & Hawkins, 2004)。

McHale & Lindahl (2011) は、様々な養育環境におかれた子どもの事情を考慮すると、子どもに対する共同養育者の問題は2つの視点から考えなければならないとした。それは、子どもの生活や健康、教育などの最終的な意思決定権に関する法的な意味での養育者という視点と、子どものアタッチメント対象や社会化を促す対象として機能するか否かという意味での養育者という視点である。その上で、全ての子どもは後者のような機能的視点から共同養育されるべきであると述べ、共同養育者は、子どもについて共通の目標をおいていること、意志決定を共有できること、お互いの見方を尊重できること、相手に対して感謝、理解、愛情をもち、互いに子どもの愛情を奪い合うようなライバル性をもたないことが重要であるとした (McHale & Lindahl, 2011)。

### (2) コペアレンティングの時期と場

親としての意識変化は、第一子出生以前の妊娠中から既に生じている (中山, 1992)。コペアレンティングもまた、妊娠中のカップルの出産後の生活について、養育の分担、仕事と育児の問題、子育ての方針、将来の展望などの話し合いを通じて見られるようになる。子ども出生前の夫婦のパーソナリティや子育てを意識した話し合いに表れる出産前の関係性は、出産後のコペアレンティングに影響を与えることも示されている (Van Egeren 2003)。

それでは、コペアレンティングが確認されるのは、どのような場だろうか。最もイメージしやすいのは、カップルがともに子どもにかかわる場面であろう。しかし実は、パートナーのいない場で間接的に相手のペアレンティングを促進したり阻害することもまた、コペアレンティングのひとつ

の姿である (McHale, 1997; Margolin, Gordis, & John, 2001)。コペアレンティングの尺度項目から例をあげれば、「夫と子どもと一緒に過ごせるように手配や準備をする」ような父親関与への母親の促進行動や、「子どもに対する夫のかかわりで気に入らない行動を他の人に話す」「お父さん、おかしいよね」と子どもに向かって言うことで、間接的に夫に伝える」ような父親関与への母親の阻害行動はこれにあたる (Van Egeren & Hawkins, 2004; 加藤他, 2014)。このように、コペアレンティングは、家族システムの関係メンバーが存在する場面における目にみえる相互作用だけではなく、いない場面での間接的な作用も含むことにより、結果としてパートナーのペアレンティングを促進したりくじけさせたりするような行為を広くとらえるのである (McHale, 1997)。

### (3) コペアレンティングと夫婦関係、コペアレンティングとペアレンティング (親-子)、他の家庭内サブシステムとの区別

コペアレンティングサブシステムは、夫婦サブシステム、ペアレンティング (親-子) サブシステムと区別されなければならない (Cowan & McHale, 1996)。それは、パートナーとしての相互作用 (夫婦関係) とコペアレンティング相互作用 (父母関係) は、同一人物間でありながら別の役割間に生じており、子どもの発達や家族システムに独自の影響力をもつからである。

例えば、夫婦関係はペアレンティングを通じて間接的に子どもの発達に影響を与えるが、コペアレンティングはより直接的な子どもとのかかわりを含みこんでいるため、子どもの発達により重要な影響をもつ (Abidin & Brunner, 1995; McHale & Rasmussen, 1998; Feinberg, 2002; Feinberg, Kan & Hetherington, 2007)。Belsky, Putnum & Crnic (1996) では、3歳児の抑制行動には、子どもの気質やそれ以前のペアレンティングだけではなく、父親と母親のコペアレンティング (サポート関係、阻害関係) の度合いが予測因として影響していることを指摘している。

また、コペアレンティングは夫婦関係とペアレンティングを媒介しているが (Margolin et al, 2001)、父親のペアレンティングと母親のペアレンティングへの関連の仕方は必ずしも一様ではない。葛藤的なコペアレンティングが、母子関係に比べると父子関係のアタッチメントに対してより大きな影響を与えているとう報告もある (Owen & Cox, 1997)。Caldera & Lindsey (2006) は1歳前後の幼児をもつ競争的なコペアレンティング関係においては、片方の親と子どもの間に安定したアタッチメント形成がされても、もう片方の親とは不安定な形成となるパターンがあることを示し、そうした関係は、片方の親がもう片方の親を排除して、子どもと親密な連合関係を形成する前兆となり得ることを示唆した。

このように、コペアレンティングサブシステムと他のサブシステムには区別が必要であることが指摘されているが、各々をどのように測定するかという問題になると、両者は混同されやすく明確な境界を設定することが容易ではない。この点について、Van Egeren & Hawkins (2004) は、他の家族サブシステムと区別したコペアレンティング評定のために4つの基準を示している。第一には子どもの存在であり、子どもに関係した評定項目という点である。例えば家事の分担は、夫婦関係なのかコペアレンティングなのかと迷うかもしれない。これについて、子どもの出生後に加わった

子どものための家事(子どもの服の洗濯など)は、コペアレンティングの指標として該当すると示唆している。第二には、パートナーの存在に言及されていることである。コペアレンティング評定は、例えば「相互協力性」のように、カップルの相互性を一変数で測定する場合もあれば、パートナー各々の行動や感情などを個々の変数で測定する場合もあるが、いずれであっても、パートナーの存在が伺えることが必要な点なのである。第三には、コペアレンティングサブシステムは本質的には二者関係であり、他のサブシステムとの関係に言及することなく家族全体の特徴をつかむことはできないという点である。第四には、コペアレンティングは共同養育者間が互いに影響を与え、与えられるという双方向のプロセスであるという点である。両者は必ずしも一致するわけではないので、回答者は、自分に対するパートナーの態度や行動を報告するだけでなく、自分がパートナーにどのような態度や行動を示しているかを報告することが必要になるとしている。

#### (4) コペアレンティングの構成概念

Weissman & Cohen (1985) は、父親と母親がともに子育てを行なっているという肯定的な意識を、parenting alliance (以下、協働感、佐藤, 2008) と呼び、①父親と母親の各々が子どもに育児に自己投入していること、②各々が子どもの成長発達において相手の重要性に価値を置くこと、③各々が相手を尊重し、相手の判断に価値を置くこと、④相互のコミュニケーションは、子どものニーズをめぐって協動的に維持すること、という4領域から捉えて夫婦関係と区別した。Abidin & Brunner (1995) は、この4領域を踏まえた20項目の子育てに関する協働感尺度を作成している。そこに示された協働感は、夫婦の育児関与、相互の尊重やコミュニケーションを要素として、ポジティブなコペアレンティングが達成されていると感じる意識であり、離婚による親子の離別に関する子どもの傷を軽減したり (Weissman & Cohen, 1985)、特別なニーズをもつ子どもの父母の親行動にも重要とされている (McBride & Rane, 1998)。

Feingberg (2003) では、コペアレンティングを「親が親としての役割をどのように一緒に行うか、どのくらい親がもう一方の親の努力をサポートするか否か」によって定義した。そして、親役割のコーディネーションの質に注目し、①子育てに関する同意、②仕事の分担、③サポータティブか阻害的か、④共同での家族マネジメントという、臨床的に有用な4つの構成要素を提示した。この4領域を基礎とし、コペアレンティングの親密性(子育てを共有する喜び)、パートナーのペアレンティングに対する承認を加え、サポータティブな面と阻害的な面を分離することで7下位尺度からなる包括的なコペアレンティング関係尺度も作成されている (Feingberg, Brown, Kan, 2012)。

これに対して Van Egeren は、より研究方法論上の有用性をめざした4次元の枠組みを提案している (Van Egeren & Hawkins, 2004)。①「coparenting solidarity (連帯意識)」は、親としてともに成長し、特別の合同サブシステムを形成していこうとする愛情と忍耐である。「子どもとの相互作用や、子どもについての相互作用の時間にパートナーとの間に表現される温かくポジティブな感情 (McHale, 1995)」や、「一緒に parenting を行うことによりともに成長する、親密になれること (Schoppe-Sullivan, Mangelsdorf, & Frosch, 2001)」にもつながる面である。②「coparenting support

〔サポート〕は、ペアレンティングの目標を達成しようとするパートナーへのサポートや努力の行為や方法、あるいはパートナー側のサポート知覚として定義される。通常の研究では、父親は母親のサポーターとしてみなされることが多いが、ここでは、コペアレンティングを高めるために必要なサポートの受け手としての父親にも着目している。また McHale (1997) が示唆したように、「子どもにむけて、その場にはいないパートナーのことをポジティブに話すことによって、強いコペアレンティング二者関係の感覚を促進しようとする親の努力」もサポートとして含まれている。③「undermining coparenting (阻害)」は、ペアレンティングの目標を達成しようとするパートナーを妨げるような行為、あるいはパートナーへの敬意の不足や批判である。ここでは、子どもに話しかけるのを他方によって遮られたり、自分の判断が無視されるような場合も、自分の価値が下げられたような思いや批判された思いとなりコペアレンティングが阻害されているとみなされる。また②のサポートと同様に、パートナーがいない時に、パートナーによる子どもへのかかわりを見下すようなコメントをすることも含まれる。こうした行動は、それが適切かどうかにかかわらず、本人が阻害されたと感じるか否かが問題とされる。④「shared parenting (子育ての共有)」は、ある場面で、どちらの親がどのくらい責任をもつのか、その責任が分担される方法について各々が公正だと思っているかどうかという側面である。

これらに対して、サポータティブなコペアレンティング行動と阻害的コペアレンティング行動の2次元でとらえる向きも多い (Cook, Schoppe-Sullivan, Buckley & Davis, 2009; Jia & Schoppe-Sullivan, 2011)。遡れば、Belsky, Putnam & Crnic, 1996; Gable, Belsky & Crnic, 1995) も、片方の親がもう片方の親の努力を支持したり阻害する程度によってコペアレンティング関係の機能を記述している。互いのペアレンティングに価値をおき、互いの権限を尊重し、一緒に子どもに対応する時は協力的で暖かいことは、サポータティブコペアレンティング関係であり、子育てに関する批判やなじりあい、子どもの注意をひくことを競ったり、相手の権限をけなしたりすることは、阻害的なコペアレンティング関係とされている。ただし先にも述べたように、コペアレンティング行動は、“夫婦関係における”協力や葛藤と同等ではないことへの注意が必要である (Schoppe-Sullivan, Mangelsdorf, Frosch & McHale, 2004)。

### 3. コペアレンティングの関連要因

#### (1) 家族の特徴 (子どもの数、家族のサイズ)

子どもの数とコペアレンティングの関連研究は少ないが、子ども数の増加に従って母親の介入的なペアレンティングが減ることから (Lindsey, Caldera & Colwell, 2005)、子どもの数によって両親間にはより組織的な動きが起こることが予測される。妊娠期のコペアレンティングと第二子出生後の第一子の反応の関連に注目した Kolak & Volling (2013) によれば、第一子の外在的な反応は第二子出生により増加するが、気質上の困難さをもつ子どもは、阻害的なコペアレンティングが高くサポータティブなコペアレンティングが低い場合、出生後に外在化がより増加するとしている。逆に、サポータティブなレベルに関わらず阻害が低い時、あるいは阻害が高くてもサポータティブも高い時に

は、気質上の困難さと外在化には有意な関連がみられなかった。ただしこの研究におけるコペアレンティングは、妊娠後期のみの測定であったため、子どもの問題行動の増加が第二子出生後のコペアレンティングに与える影響は検討されておらず、さらに検討が必要である。

## (2) 親の特徴

### 〈原家族〉

コペアレンティングは、共同養育者の各々が親になる以前の経験、特に原家族の両親がどのようなコペアレンティングを行っていたのかにより影響を受ける。母親側の原家族におけるコペアレンティングの質の高さ(Shophe-Sullivan, Cannon, Brown, Mangelsdorf, & Sokolowski, 2008)や、母親による実親の理想化(Cannon, Schoppe-Sullivan, Mangelsdorf, & Sokolowski, 2008)は、父親の子育て関与を低下させる。しかし、父親側の原家族におけるコペアレンティングの質の高さは、父親関与やサポートティブなコペアレンティングを高めていた(Van Egeren, 2003; Stright & Bales, 2003)。このように、原家族要因はともに自分たちのコペアレンティングにとって影響力をもつため、双方の原家族要因がどのように現在の子育てに組み込まれ調整されていくのかについての研究が待たれる。

### 〈学歴・経済状態・年齢・性別〉

学歴の高さがコペアレンティングを調和的にすることや(Stright & Bales, 2003; Van Egeren, 2003)、父母両者の教育歴の差が小さいほどサポートティブなコペアレンティングと関連することを示す研究がみられる(Belsky, Crnic & Gable, 1995)。これに対してMcHale & Lindahl (2011)は、学歴は社会経済的な状態と関連して生活ストレスが生じさせ、それがペアレンティングやコペアレンティングの質の低下につながると指摘する。年齢については、年長の父親のコペアレンティングがよりサポートティブであるという結果や(Van Egeren, 2003)、年少の父親がよりサポートティブであるという結果があり(Gable et al., 1995)一貫していない。Jia & Schoppe-Sullivan (2011)のように、父親年齢、母親年齢、教育歴、収入(有職・無職)はコペアレンティングとほとんど相関がみられないという報告もある。父親と母親の差異については、幼児期には父親が母親よりもサポートティブであること(Gable et al., 1995)、未就学期と青年期前期では母親は父親よりも協働的であり、特に息子をもつ母親は娘をもつ母親よりもその傾向が強いこと(Margolin et al., 2001)を示す結果が見られている。

### 〈信念・態度〉

妊娠期における子育てに対する信念や態度に関する研究が散見される。子育てに対する信念や態度がより柔軟であること(Lindsey et al., 2005)、父親の子育て関与に対する考えが伝統的ではなくより進歩的なこと(Schoppe-Sullivan, Cannon, Brown, Mangelsdorf, & Sokolowski, 2008)は、サポートティブなコペアレンティングと関連する。また、妊娠期における父母双方の子育てに対する信念の一致と出生後のコペアレンティングの関連に関する報告も多い。例えば、子育てに対する母親と父親の信念の差が大きいほど、生後3か月におけるコペアレンティング困難が予測され(McHale,

Kazali, Rotman, Talbot, Carleton, & Lieberman, 2004), 生後12か月, 30か月の困難にも影響を及ぼしていた (McHale & Rotman, 2007)。また妊娠期に親が自分たちのコペアレンティング関係についてどのような見通しを持っているかということも, 出生後のコペアレンティングを予測する (McHale et al., 2004; McHale & Rotman, 2007)。Van Egeren (2003) は, 妊娠期に子育てを理想化し過ぎている父親は, 後にコペアレンティング満足感が下がることを示している。

育児期においては, 母親による父親の家庭内役割を重視する考えや, 母親の認知する父親の育児コンピテンスの高さが父親の育児関与に関わること (Beitel & Parke, 1998; Rane & McBride, 2000) が示されている。母親が父親のコンピテンスを感じられないという状況としては, 父親自身の感じるコンピテンスそのものが低く, その結果として父親関与が低い状態にあるということが考えられる。しかし, 母親が父親のコンピテンスを感じられないことによって, 母親の「父親に任せられない気持ち (gatekeeping)」や「父親の能力を低く見積もる態度 (あるいは, 父親の育児関与を尊重できない態度)」が高まり, その結果, 父親の関与が母親によって阻害されるという道筋も想定できるだろう。また, 生後2か月時の父親有能感が高いほど, 5か月時には父親関与に対する母親の認知が高く, 2か月時の父親関与に対する母親の認知が高いほど, 5か月時の父親の有能感が高いという報告もあり (Tremblay & Pierce, 2011), 父母双方向の影響関係が, 子育ての中でコペアレンティングの形成プロセスに関わっていることを示唆している。

#### 〈親の性格特性〉

Lee (2010) は, 阻害的なコペアレンティングである「批判」, サポートティブなコペアレンティングである「促進」, そしてNEO-FFIの5次元: 神経症傾向 (Neuroticism), 外向性 (Extraversion), 開放性 (Openness), 調和性 (Agreeableness), 誠実性 (Conscientiousness) の相関を検討している。その結果, 「調和性」と「批判」の間に負の弱い相関関係, 「外向性」と「促進」および「神経症傾向」と「批判」の間には正の弱い相関が見られた。Stright & Bales, (2003) は, 調和性, 誠実性, 外向性, 開放性の高さ と神経症傾向の低さから, パーソナリティの適応性という合成変数を算出し, コペアレンティングとの関係を検討している。その結果, 適応性が低い母親ほど, 自身の報告においても調査者による観察においてもサポートティブなコペアレンティングが低かった。その他にも, 父母が他者から保護され支えられている感情を抱いていると, 2人が築くコペアレンティング関係はよりバランスを保ち, サポートティブとなること (McHale, 1995), 有能感や (Lindsey et al., 2005) 自我レジリエンスの高さ (Talbot & McHale, 2004; Elliston, McHale, Talbot et al., 2008) 等, 総じてポジティブで適応的なパーソナリティがより適切なコペアレンティングに関連することが示されている。しかし, 成人アタッチメントの安定的な母親と安定的な父親がペアの場合はコペアレンティングの結束が最も強いが, 安定的な母親と不安定な父親のペアでは最も低いという報告もあり, 本来はポジティブな特性であっても, ネガティブなパートナーの特性との関係の中では, コペアレンティングに与える影響を (緩和するのではなく) 悪化させてしまう場合があることを考えておかなければならない (Talbot, Baker, & McHale, 2009)。

親の性格特性と他要因との関係した作用としては, ネガティブな情緒は母親から父親に対する阻



害的コペアレディングを高めるが、母親が父親を重要と考える信念を持っているほどその影響が緩和されること (Cannon et al., 2008)、母親の対人交流性とネガティブな情緒はコペアレディングに直接的に関連するが、父親においては、子どもの気質が困難な場合に、コペアレディングに関連するという報告がある (Laxman, Jesse, Mangelsdorf, Rossmiller-Giesing, Brown, & Schoppe-Sullivan, 2013)。

### (3) 子どもの特徴

子どもの性別によりコペアレディングには差異があるとする報告がある。McHale (1995) は、夫婦の抑うつは男児(女児ではなく)家庭の敵対的-競争的コペアレディングと関連する一方で、夫婦同士の不調和は(男児ではなく)女児の家族に存在するとしている。Brown, Schoppe-Sullivan, Mangelsdorf, & Neff (2010) では、生後3か月半で測定したコペアレディングと1歳時のアタッチメントの関連を検討したところ、男児では、コペアレディングと父-子、母-子アタッチメントが関連していたが、女児では関連がみられなかった。子どもの性別による違いは、学童期や青年期のコペアレディングにおいても指摘されている (McConnell & Kerig, 2002; Margolin et al., 2001)。

子どもの気質については、扱いやすい子どもではポジティブなコペアレディングがより高く、扱いにくい子どもではより低いという報告が多く (Feinberg, 2003; Van Egeren, 2004; Lindsey et al., 2005; McHale et al., 2007; Gordon & Feldman, 2008; Davis, Schoppe-Sullivan, Mangelsdorf & Brown, 2009)、乳児期の子どもの睡眠の問題が親の抑うつを介してコペアレディングを低下させる潜在因となる可能性も指摘されている (McDaniel & Teti, 2012)。

子どもの気質が他のリスク要因と組み合わせさせてコペアレディングの質に作用する例をあげると、Schoppe-Sullivan, Mangelsdorf, Brown & Sokolowski (2007) では、出産前に夫婦関係満足度の低い父母が、気質的に困難な子どもに直面する場合、観察されたコペアレディング行動はよりサポートティブ面が低く阻害面が高い。また、Schoppe-Sullivan, Weldon, Claire Cook, Davis, & Buckley (2009) では、意識的な情動統制が低い4歳児であっても、サポートティブなコペアレディングであれば、1年後の外在化の問題は低減されることから、コペアレディングの質の高さが子どもの問題行動を緩衝する可能性が示されている。同様に、コペアレディングは、3歳時点の子どもの気質が4歳時点の本人の自己感に与える影響を媒介することも報告されている (Brown, Mangelsdorf, Neff, Schoppe-Sullivan, & Frosch, 2009)。しかし、Cook et al. (2009) では、予想に反して、4歳児のネガティブ感情の強さとサポートティブなコペアレディングは、夫婦関係が良好な家庭で有意な負の関連を示し、夫婦関係が良好でない家庭では有意ではないという結果を示した。すなわち、良好な夫婦関係にある夫婦ほど、子どもの困難さが高まることでサポートティブなコペアレディングがむしろ維持できなくなる可能性が示唆されている。

なお、子どもの気質とコペアレディングの作用の方向についての検討もされている。Davis et al. (2009) は、1歳までの子どもの気質がコペアレディングの安定性と変化に及ぼす役割について、

双方向の影響性を検討した。その結果、子どもの気質の困難さは、サポートティブなコペアレンティングが時間に伴って減少することに関連する一方、初期のサポートティブなコペアレンティングは、子どもの困難さの減少に関連することが報告されている。

#### (4) 夫婦関係の質

サポートティブなコペアレンティングによって夫婦の愛情が維持されること (Belsky, Hsieh, & Crnic, K., 1998), 夫婦関係の葛藤と阻害的なコペアレンティングの関係は生後6か月よりも3歳時点で強いこと (Schoppe-Sullivan et al., 2004), 妊娠中の夫婦関係の質が出生後のコペアレンティング調整の質と関連すること (Van Egeren & Hawkins, 2004) 等, コペアレンティングと夫婦関係の質の間には強い関係があることが指摘されている。また, 夫婦関係満足の高い父母は, 3歳児の子どもの困難な行動に直面しても適切なコペアレンティングを示すが, 満足の低い場合は適切なコペアレンティング行動が少ない (Schoppe-Sullivan et al., 2007)。

ただし, 妊娠後期に夫婦関係が良好なほど, 生後3か月半でのコペアレンティングも良好であるが, 妊娠期の夫婦関係が良好ではなくても, 母親が父親役割について進歩的な信念をもつ場合は, コペアレンティングはより良好であったことも示されるなど (Schoppe-Sullivan & Mangelsdorf, 2013), 両者の影響の緩衝要因を探索する研究も存在する。その一方で, 先に(3)で示した Cook et al. (2009) の結果のように, 夫婦関係の良好さが必ずしもコペアレンティングに対する子どもの困難さ要因の緩衝となるとは限らないことも示されている。夫婦サブシステムとコペアレンティングサブシステムは, 同じ二者間の異なる役割関係を表すものであることから, その区別はそもそも明確にはなりにくい。従って, 二者の置かれた状況や条件を明らかにしながら検討を重ねていく必要がある。

#### (5) 父親の関与

子育てに関する研究は, 長い間, 父親の子育て関与をどのように拡大させることができるかという課題を抱え持ってきたと言っても過言ではなく, 多くの研究が父親の関与を変数化している。しかし, 父親による子育てへの関与は, 父親のペアレンティングととらえられる場合, 母親へのサポートととらえられる場合, コペアレンティングの一部であるととらえられる場合など様々であり, それらの切り分けは必ずしも明確ではない。

ところで, 父親の関与とコペアレンティングが区別されても, 父親の関与によりサポートティブなコペアレンティングが高まるのか, サポートティブなコペアレンティングにより父親の関与が高まるのかという, 両者の関連の方向性については明らかではなかった。この点について, 最近の研究成果が示されている。Jia & Schoppe-Sullivan (2011) は, 2人親同居家庭 112組を対象として, 子どもが4歳時と5歳時点におけるコペアレンティングと父親関与について, 交差遅延効果モデルにより双方向の影響を検討した。その結果, 父親の関与からコペアレンティングへのパスは有意であったが, その逆は有意ではなく, 父親の関与がコペアレンティングの質を高める方向で作用することが示されている。また Fagen & Cabrera (2012) も, 交差遅延効果モデルによる検討により, 生後9か

月の父親関与は、2歳、4歳時のコペアレンティングに有意な影響を示し、逆は一部が支持されたのみであることを示して Jia & Schoppe-Sullivan (2011)の結果を支持した。

なお、Jia & Schoppe-Sullivan (2011)の研究では、父親が関与する子育て領域を“世話”と“遊び”に分けて検討した点も注目値する。父親による“遊び”への関与が増加すると、共働きの母親と専業主婦の母親のいずれにおいても、1年後のサポートティブなコペアレンティングは増加して阻害的な面が減少したが、父親による“世話”への関与が増加すると、1年後のサポートティブな面は減少し阻害的な面が増加していることを示した。Buckley & Schoppe-Sullivan (2010)では、共働き家庭では、父親の“世話”と“遊び”が多いほど阻害面がより少なく、母親が無職の場合は、父親の“世話”関与が多いほど阻害面が多いと述べている。いずれも、母親の家庭領域での立ち位置や父親の関与する領域によっては、母親のゲートキーピング行動(母親が父親の育児関与に采配をふるい阻害する行動:加藤他, 2012)が刺激され、コペアレンティングが阻害的となる可能性が示唆される。

#### 4. 子どもの発達時期におけるコペアレンティング

子育ての最初期となる乳児期は、養育者の一貫した応対によりアタッチメントが形成される時期であり、養育ケアを通じた母親と乳児の調律が重要とされている。成り行きとして、父親は、母親が子どもと安定した二者関係を築くために背後から母親支援者となるか、せいぜい母親の指示や助けを得ながら子どもとかかわるなど、子育ての付加的な立場をとることになりやすい。この時期、母親が子どもとの強い一体感をもつことにより有能感や自信が高まることは望ましいことではあるが、「子どもの世話は自分がやらなければならない」という責任を過度に取り込んで子どもに没頭すると、子育てがうまくいっている場面では充足感を感じるが、うまくいかない場面では負担感が高まる(加藤, 2007)。これは、いわゆるゲートキーピング行動が高まることで他者からの援助を自ら遠ざけるため、コペアレンティングが阻害される状態と考えられる。その際には、特に父子アタッチメントの安定性が低下するという報告もある(Owen & Cox, 1997)。従って、夫婦二者関係から家族三者関係への移行には、夫と妻が父と母になっていくための互いの調律も必要ということになる。その調律がうまくいかず、赤ちゃんを挟んで競い合うと、片方の親とは安定しもう片方とは不安定なアタッチメントが形成されるというように、敵対的—競争的なコペアレンティングの初期パターンを呈する可能性がある(McHale, 1995; Caldera et al., 2006)。

発語や始歩以後の幼児期は、子どもの洗練されない欲求の表出にどのように対応するかが、子育てにおける重要な課題となる。乳児期は養育的ケアを中心に母親がリードすることが多くても、子どもの運動、認知、社会情動的発達が進むにつれ、父親は関与が求められ引き出されていくだろう(MacDonald & Parke, 1986)。ただし、養育的ケアにしつけが加わってくると、それぞれに原家族の歴史、信念、価値、性格の異なる父親と母親が、子どもの特性に合わせて、どのように互いの子育ての目標と方針を調整するかが迫られる。子どもの行動を統制するには、一定のルールや基準が求められるため、サポートティブなコペアレンティングによって相互が承認、尊重し合えると、家庭内の一致と安定感が生まれ(McHale, 1997)、子どもの相互作用のスキルが高まり情動調整が促進され

(Karreman, van Tuijl, van Aken, & Deković, 2008), 内在的外在的問題は低減される (Kolak et al, 2008)。

しかし、歩行開始時の阻害的なコペアレンティングは、子どもの気質上の困難さを土台に、3歳時の行動抑制の困難さにつながったり (Belsky et al.1996), 1歳前や3歳時の阻害的なコペアレンティングが、4歳時の外在化の高さを予測する結果となっている (McHale et al, 1998; Schoppe, Mangelsdorf & Frosch, 2001)。コペアレンティングはまた、社会的発達や向社会的行動 (Cox & Paley, 1997; Scrimgeour, Blandon, Stifter, & Buss, 2013), 子どもの仲間関係や (Leary & Katz, 2004), 学童期の不安, 内在化, 外在化行動 (McConnell & Kerig, 2002), 学童期の注意力や学業成績, 受動性や依存の問題との関連も指摘されている (Stright & Neitzel, 2003)。コペアレンティングが一致して良好であるということは、子どもにとって、家庭内の情緒的安定をもたらすだけではなく、対人関係のモデリングとして作用し、社会的行動の内在化に役立つと考えられている (Eisenberg, Spinrad, & Sadovsky, 2006)。

青年期は、子どもの自立課題を背景に、家族関係の問い直しを迫られる時期であるが、乳幼児期に比べると、コペアレンティングと青年期の問題行動に関する研究は十分ではない。コペアレンティングの葛藤はネガティブなペアレンティングおよび青年期の反会的行動の双方の予測因となるという結果に加えて (Freiberg et al. 2007), 抑うつ的な症状と両親の不調和は女子では有意に関連するが男子では見られないという性差の指摘もある (Crawford, Cohen, Midlarsky, & Brook, 2001; Margolin et al. 2001)。また Beril, Crouter & McHale (2007) は、自宅訪問による親子並行面接による縦断調査を行った結果、男子については、16歳時のリスク行動が1年後のコペアレンティング葛藤を予測すること、抑うつは、女子も男子も1年後のコペアレンティングの葛藤を予測することを示した。ただし、コペアレンティング葛藤の高さは、初期の行動上の困難さを統制しても2年後のリスク行動の増加を予測したが、抑うつの変化は予測しなかった。

総じて、子どもの発達時期にかかわらず、互いを尊重し協力的に子育てを進めるコペアレンティングの質は子どもにとって重要な意味がある。良好なコペアレンティングは、家族の状況が困難であっても、親や子ども自身に困難な特性があっても、子どもへの悪影響を軽減させる可能性をもっている。ただし、Scrimgeour et al. (2013) は、幼児期・児童期には、コペアレンティングのポジティブな面が子どもにとって重要であるとし、Beril et al. (2007) は、青年期ではネガティブな面が子どもに関わると示唆していることを考えると、子どもの発達変化に伴ってコペアレンティングも変容するのか、あるいは、仮にコペアレンティングは安定していても異なる側面が子どもに影響を及ぼすようになるのかもしれない。

## 5. 考察と今後の課題

これまで概観してきたように、米国におけるコペアレンティング研究の拡大は目覚ましく、質問紙、実験、行動観察、面接研究による結果が縦断データも含めて蓄積され、多要因モデル、媒介モデル、因果モデル、縦断的な双方向交差遅延効果モデルの究明へと進んでいる。また、「父-母-子」単位

の大規模サンプリングの解析も行われている。こうした米国におけるコペアレンティング研究に追いつくのは容易ではないが、研究成果の蓄積は心強い。コペアレンティングは幅広い概念ではあるが、ふたり親家庭のコペアレンティング研究も既に豊富に行われており、父親-母親二者間の子育てのメカニズムを知る上で有効である。ここでは、先行のコペアレンティング研究の知見を踏まえ、今後の日本の子育て研究、特にふたり親家庭におけるコペアレンティング(夫婦ペアレンティング)研究の展開へ向けた課題をまとめる。

第一に、評定の問題がある。コペアレンティングの構成概念は精緻化に向かってはいるものの、測度としての評定尺度は、意識、態度、信念、行動レベルが研究ごとに多様である。また、コペアレンティング評定方法(評定者)が、対象者の自己申告回答によるか第三者の観察によるかによって結果に不一致が見られることも指摘されている(Stright & Neitzel, 2003)。この点については、コペアレンティングの評定だけではなく、関連要因としての子どもの気質についても同様に、客観的な第三者評定なのか親の知覚に基づく報告なのかによって矛盾した結果が生じやすい(Delobel-Ayoub, Arnaud, White-Koning, Casper, Pierrat, Garel, & Larroque, 2009)。他の研究においても、親と観察者の子ども評定は、必ずしも高い相関がみられるわけではなく、子どもの気質を観察者ではなく親が報告した場合には、子どもの気質と夫婦関係の質により強い相関が得られている(Schoppe-Sullivan et al., 2007)。評定に多彩なアプローチが存在することによって、コペアレンティングをめぐる状況が多面的に記述されることは意味があり望ましいが、結果の解釈については慎重さが求められる。

第二に、コペアレンティングという用語は、父親と母親が協働することや均等であることを意味するかのようになり、一定の価値観が既に含まれているものという誤解が生じやすい。概念に立ち返ると、コペアレンティングとは「その子どもの世話と養育に責任を負うべき複数の養育者が共有する行為(McHale & Lindahl, 2011)」であり、その様態はサポータティブな場合もあれば阻害的な場合もある。また必ずしも父親と母親の子育て関与のバランスが均等であることを表しているわけでもない。子どもの年齢や発達、きょうだいの存在、家庭外労働や家庭外支援者の状態によっても、子どもをめぐるコペアレンティング作業の内容や度合、両者のバランスは異なるだろう。その点について、Van Egeren & Hawkins (2004)は、ペアレンティングの共有は親の責任が分担される方法について「各々が公正だと思っているかどうか」が重要」と述べており、これは的確な示唆ではないかと思われる。すなわち、コペアレンティングは、第三者の判定による父母の望ましい役割内容やバランスというよりもむしろ、親としての個々の役割関係への“了解”を土台としているのであり、お互いが全体として補償しあうことを含む共同養育の姿と考えられる。

第三として、父母二者間の関係性の検討にあたっては、個人による行動がその人自身に及ぼす影響と、パートナーに及ぼす影響を詳細に検討する視点を見逃してはならないだろう。例えば、パートナーに対してサポータティブなコペアレンティングは、相手の協働感を高めることになっても、自分の中では常時気遣いが必要とされることについて負担感を感じるようになるかもしれない。逆に、パートナーのやり方の間違いを指摘しやり方を正すようなコペアレンティングを行うことは、自分

としてはコペアレンティングを高めるための積極的な姿勢だと思っけていても、相手にとっては阻害的コペアレンティングと感じられるかもしれないからである。浅野(2011)は、恋愛関係が精神的健康にもたらす影響を、個人内にとどまらないよりダイナミックなプロセスとして捉え直すことを目的として、個人内過程と個人間過程の両側面に注目したモデルの検証を試みており、父母二者間の双方向の関係性を検討する上で、今後の参考にしていきたい。

第四として、家族システムにおける子どもの存在と寄与への注目である(Crouter & Booth, 2003)。「父親・母親・子ども」という分析単位は、二者関係を連結するだけでは不十分であり、三者関係自体が分析単位となる方法が考えられなければならない。しかし、三者関係や家族集団レベルが分析単位であることは理論として承知できても、研究の実際的手法にどのように取り込めるかは依然として困難である。子ども回答は、自記式質問紙に回答できる年齢であることが条件となるため、思春期以降の研究に偏る一方、親回答による研究は幼児期から児童期が圧倒的に多く、青年期の親に関しては比較的少ない。臨床現場では重要な意味をもつはずの子どもの存在が、家族システムの研究上はなかなか光を当てにくい現状がある。加えて、「父親・母親・子ども」の三者関係は、単純化されたモデル上のわかりやすさという点で意味があるが、現実の家族関係のダイナミクスは家族ひとりひとりを重要な構成要素としたプロセスであること、家族内の各サブシステムは互いに影響し合いながら家族の全体性に影響を与えていることを考慮すると、きょうだいの存在や子ども数の影響も見逃せない点となる。

第五として、子どもの発達段階にまたがるコペアレンティングの安定と変容の検討が未だ十分ではない。研究手法上、乳幼児から青年期後期の自立期まで、長期にわたる子育てをとらえる追跡調査は容易ではなく、実際上も、コペアレンティングの縦断研究は乳幼児期(親への移行期)に集中しているのが現状である。しかし、コペアレンティングサブシステムの調整が臨牀的に問題となるのは、子どもの発達変容に伴って、これまでの家族のルールが通用しなくなり新たなニーズが生じる場面であることが少なくない。それは、必ずしも父母が完全に一致していなければならないという問題ではなく、父母が互いに子育ての各領域を補い合いつつ子どもに関わったり(Schoppe-Sullivan, Kotila, Jia, Lang, & Bower, 2013)、差異や不協和に際しても、互いの尊重とコミュニケーションを土台とし、和解や調和に向けた努力がなされるかどうか(Feingberg et al, 2012)の問題である。これらを踏まえると、子育ての様々な移行期において、父母間ではどのようなコペアレンティングの再調整が行われるのかを検討することが今後の重要な課題となろう。

最後に、言い尽くされてきたことではあるが、子育てをとりまく社会・経済・文化的背景への感受性を見失わないことが必要である。本稿では、子どもたちが父親や母親との個々の親子関係を形成しながらも、同時にまた、関与の方法の異なる三者システムの中で発達し、家族として機能していることをまとめてきた。しかし、米国の子育てのメカニズムに関わる知見に学びながらも、日本の子育てをとりまく広い意味での文脈や、時間の中で変容していく姿を丹念に記述することを忘れてはならない。その意味でも、これまで日本に蓄積されてきた数多くの子育て研究をコペアレンティングの枠組みからあらためて振り返ることには意味がある。その上で、コペアレンティングを成人

発達の文脈において長期的に見据えながら、そこにはどのような変化と安定性が存在するかを問うことも重要な視点となる。

## 【付記】

本研究は科研費基盤 B (24330191, 研究代表者: 加藤道代) の助成を受けた。

## 【引用文献】

- Abidin, R. R., & Brunner, J. F. (1995). Development of a parenting alliance inventory. *Journal of Clinical Child Psychology, 24*, 31-40.
- 青木聡子 (2009a). 幼児をもつ共働き夫婦の育児における協同とそれにかかわる要因: 育児の計画における連携・調整と育児行動の分担に着目して. *発達心理学研究, 20*, 382-392.
- 青木聡子 (2009b). 北米における離婚経験のない夫婦のコ・ペアレンティング研究の現状と課題: わが国の今後の育児研究に向けて. *学校教育学研究論集, 20*, 17-27.
- 浅野良輔. (2011). 恋愛関係における健康生成モデルの個人内・個人間過程: カップルデータを用いた検討. *実験社会心理学研究, 50*, 158-167.
- Beitel, A. H., & Parke, R. D. (1998). Paternal involvement in infancy: The role of maternal and paternal attitudes. *Journal of Family Psychology, 12*, 268-288.
- Belsky, J., Hsieh, K. H., & Crnic, K. (1998). Mothering, fathering, and infant negativity as antecedents of boys' externalizing problems and inhibition at age 3 years: Differential susceptibility to rearing experience? *Development and Psychopathology, 10*, 301-319.
- Belsky, J., Putnam, S., & Crnic, K. (1996). Coparenting, parenting, and early emotional development. *New Directions for Child and Adolescent Development, 74*, 45-55.
- Beril, M.E., Crouter, A.C. & McHale, S. M. (2007). Processes linking adolescent well-being, marital love, and coparenting. *Journal of Family Psychology, 21*, 645-654.
- Brown, G. L., Mangelsdorf, S. C., Neff, C., Schoppe-Sullivan, S. J., & Frosch, C. A. (2009). Young children's self-concepts: Associations with child temperament, mothers' and fathers' parenting, and triadic family interaction. *Merrill-Palmer Quarterly, 55*, 184-216.
- Brown, G. L., Schoppe-Sullivan, S. J., Mangelsdorf, S. C., & Neff, C. (2010). Observed and reported supportive coparenting as predictors of infant-mother and infant-father attachment security. *Early Child Development and Care, 180*, 121-137.
- Buckley, C. K., & Schoppe-Sullivan, S. J. (2010). Father involvement and coparenting behavior: Parents' nontraditional beliefs and family earner status as moderators. *Personal Relationships, 17*, 413-431.
- Caldera, Y. M., & Lindsey, E. W. (2006). Coparenting, mother-infant interaction, and infant-parent attachment relationships in two-parent families. *Journal of Family Psychology, 20*, 275-283.
- Cannon, E. A., Schoppe-Sullivan, S. J., Mangelsdorf, S. C., & Sokolowski, M. S. (2008). Parent characteristics as antecedents of maternal gatekeeping and fathering behavior. *Family Process, 47*, 501-519.
- Cook, J. C., Schoppe-Sullivan, S. J., Buckley, C. K., & Davis, E. F. (2009). Are some children harder to coparent than

- others? Children's negative emotionality and coparenting relationship quality. *Journal of Family Psychology*, **23**, 606-610.
- Cowan, P. A., & McHale, J. P. (1996). Coparenting in a family context: Emerging achievements, current dilemmas, and future directions. *New Directions for Child and Adolescent Development*, **74**, 93-106.
- Cox, M. J., & Paley, B. (1997). Families as systems. *Annual Review of Psychology*, **48**, 243-267.
- Crawford, T. N., Cohen, P., Midlarsky, E., & Brook, J. S. (2001). Internalizing symptoms in adolescents: Gender differences in vulnerability to parental distress and discord. *Journal of Research on Adolescence*, **11**, 95-118.
- Crouter, A. C., & Booth, A. (Eds.). (2003). *Children's influence on family dynamics: The neglected side of family relationships*. London: Routledge.
- Davis, E. F., Schoppe-Sullivan, S. J., Mangelsdorf, S. C., & Brown, G. L. (2009). The role of infant temperament in stability and change in coparenting across the first year of life. *Parenting: Science and Practice*, **9**, 143-159.
- Delobel-Ayoub, M., Arnaud, C., White-Koning, M., Casper, C., Pierrat, V., Gareil, M., & Larroque, B. (2009). Behavioral problems and cognitive performance at 5 years of age after very preterm birth: the EPIPAGE Study. *Pediatrics*, **123**, 1485-1492.
- Dush, C. M. K., Kotila, L. E., & Schoppe-Sullivan, S. J. (2011). Predictors of supportive coparenting after relationship dissolution among at-risk parents. *Journal of Family Psychology*, **25**(3), 356.
- Eisenberg, N., Spinrad, T. L., & Sadovsky, A. (2005). Empathy-related responding in children. In M. Killen & J. Smetana (Eds.), *Handbook of moral development*, 517-550. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Elliston, D., McHale, J., Talbot, J., Parmley, M., & Kuersten-Hogan, R. (2008). Withdrawal from coparenting interactions during early infancy. *Family Process*, **47**, 481-499.
- Fagan, J., & Cabrera, N. (2012). Longitudinal and reciprocal associations between coparenting conflict and father engagement. *Journal of Family Psychology*, **26**, 1004-1011.
- Feinberg, M. E. (2002). Coparenting and the transition to parenthood: A framework for prevention. *Clinical Child and Family Psychology Review*, **5**, 173-195.
- Feinberg, M. E. (2003). The internal structure and ecological context of coparenting: A framework for research and intervention. *Parenting: Science and Practice*, **3**, 95-131.
- Feinberg, M. E., Brown, L. D., & Kan, M. L. (2012). A multi-domain self-report measure of coparenting. *Parenting: Science and Practice*, **12**, 1-21.
- Feinberg, M. E., Kan, M. L., & Hetherington, E. M. (2007). The longitudinal influence of coparenting conflict on parental negativity and adolescent maladjustment. *Journal of Marriage and Family*, **69**, 687-702.
- Gable, S., Belsky, J., & Crnic, K. (1995). Coparenting during the child's 2nd year: A descriptive account. *Journal of Marriage and the Family*, **57**, 609-616.
- Gordon, I., & Feldman, R. (2008). Synchrony in the triad: A microlevel process model of coparenting and parent-child interactions. *Family Process*, **47**, 465-479.
- Jia, R., & Schoppe-Sullivan, S. J. (2011). Relations between coparenting and father involvement in families with preschool-age children. *Developmental Psychology*, **47**, 106-118.
- 神谷哲司・菊池武尙 (2004). 育児期家族への移行にともなう夫婦の親役割観の変化. *家族心理学研究*, **18**, 29-42.
- Karremans, A., van Tuijl, C., van Aken, M. A., & Deković, M. (2008). Parenting, coparenting, and effortful control in



- preschoolers. *Journal of Family Psychology*, *22*, 30-40.
- 加藤道代(2007). 子育て期の母親における「被援助性」とサポートシステムの変化(2). 東北大学大学院教育学研究科研究年報, *55*, 243-270.
- 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司(2012). 母親の gatekeeping に関する研究動向と課題: 夫婦ペアレンティングの理解のために. 東北大学大学院教育学研究科研究年報, *61*, 109-126.
- 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司(2014). 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討. 心理学研究, *84*, 566-575.
- 加藤容子・金井篤子(2006). 共働き家庭における仕事家庭両立葛藤への対処行動の効果. 心理学研究, *76*, 511-518.
- Kline, M., Johnston, J. R., & Tschann, J. M. (1991). The long shadow of marital conflict: A model of children's postdivorce adjustment. *Journal of Marriage and the Family*, *53*, 297-309.
- 小堀彩子(2010). 子どもを持つ共働き夫婦におけるワーク・ファミリー・コンフリクト調整過程. 心理学研究, *81*, 193-200.
- Kolak, A. M., & Volling, B. L. (2013). Coparenting moderates the association between firstborn children's temperament and problem behavior across the transition to siblinghood. *Journal of Family Psychology*, *27*, 355-364.
- 黒澤泰(2011). 共働き夫婦におけるスピルオーバーとコーピング: 夫婦を分析単位とした視点から. 応用心理学研究, *37*, 29-39.
- Lamb, M. (1975). Fathers: Forgotten contributors in child development. *Human Development*, *18*, 245-266.
- Laxman, D. J., Jessee, A., Mangelsdorf, S. C., Rossmiller-Giesing, W., Brown, G. L., & Schoppe-Sullivan, S. J. (2013). Stability and antecedents of coparenting quality: The role of parent personality and child temperament. *Infant Behavior and Development*, *36*, 210-222.
- Leary, A., & Katz, L. F. (2004). Coparenting, family-level processes, and peer outcomes: The moderating role of vagal tone. *Development and Psychopathology*, *16*, 593-608.
- Lee, M. 2010. *The Big Five personality traits and maternal gatekeeping at the transition to parenthood*. (senior thesis, Ohio University). Retrieved from <https://kb.osu.edu/dspace/handle/1811/45471> (2014年8月20日アクセス)
- Lindsey, E. W., Caldera, Y., & Colwell, M. (2005). Correlates of coparenting during infancy. *Family Relations*, *54*, 346-359.
- Maccoby, E. E., Depner, C. E., & Mnookin, R. H. (1990). Coparenting in the second year after divorce. *Journal of Marriage and the Family*, *52*, 141-155.
- MacDonald, K., & Parke, R. D. (1986). Parent-child physical play: The effects of sex and age of children and parents. *Sex Roles*, *15*, 367-378.
- Margolin, G., Gordis, E. B., & John, R. S. (2001). Coparenting: A link between marital conflict and parenting in two-parent families. *Journal of Family Psychology*, *15*, 3-21.
- McBride, B. A. & Rane, T. R. (1998). Parenting alliance as a predictor of father involvement: An exploratory study. *Family Relations*, *47*, 229-236.
- McConnell, M. C., & Kerig, P. K. (2002). Assessing coparenting in families of school-age children: Validation of the Coparenting and Family Rating System. *Canadian Journal of Behavioural Science*, *34*, 44-58.

- McDaniel, B. T., & Teti, D. M. (2012). Coparenting quality during the first three months after birth: The role of infant sleep quality. *Journal of Family Psychology*, *26*, 886-895.
- McHale, J. P. (1995). Coparenting and triadic interactions during infancy: The roles of marital distress and child gender. *Developmental Psychology*, *31*, 985-996.
- McHale, J. P. (1997). Overt and covert coparenting processes in the family. *Family Process*, *36*, 183-201.
- McHale, J. P., Kazali, C., Rotman, T., Talbot, J., Carleton, M., & Lieberman, R. (2004). The transition to coparenthood: Parents' prebirth expectations and early coparental adjustment at 3 months postpartum. *Development and Psychopathology*, *16*, 711-733.
- McHale, J. P., & Lindahl, K. M. (2011). *Coparenting: A conceptual and clinical examination of family systems*. Washington DC: American Psychological Association.
- McHale, J. P., & Rasmussen, J. L. (1998). Coparental and family group-level dynamics during infancy: Early family precursors of child and family functioning during preschool. *Development and Psychopathology*, *10*, 39-59.
- McHale, J. P., & Rotman, T. (2007). Is seeing believing?: Expectant parents' outlooks on coparenting and later coparenting solidarity. *Infant Behavior and Development*, *30*, 63-81.
- Minuchin, P. (1985). Families and individual development: Provocations from the field of family therapy. *Child Development*, *56*, 289-302.
- Minuchin, S. (1974). *Families and Family Therapy*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- 中山まき子 (1992). 妊娠体験者の子どもを持つことにおける意識：子どもを〈授かる〉・〈つくる〉意識を中心に。発達心理学研究, *3*, 51-64.
- Owen, M. T., & Cox, M. J. (1997). Marital conflict and the development of infant-parent attachment relationships. *Journal of Family Psychology*, *11*, 152-164.
- Pruett, M. K., Williams, T. Y., Insabella, G., & Little, T. D. (2003). Family and legal indicators of child adjustment to divorce among families with young children. *Journal of Family Psychology*, *17*, 169-180.
- Rane, T. R., & McBride, B. A. (2000). Identity theory as a guide to understanding fathers' involvement with their children. *Journal of Family Issues*, *21*(3), 347-366.
- 佐藤奈保 (2008). 乳幼児期の障害児をもつ両親の育児における協働感と相互協力の関連. 千葉看護学会誌, *14*, 46-53.
- Schoppe-Sullivan, S. J., Cannon, E. A., Brown, G. L., Mangelsdorf, S. C., & Sokolowski, M. S. (2008). Maternal gatekeeping, coparenting quality, and fathering behavior in families with infants. *Journal of Family Psychology*, *22*, 389-398.
- Schoppe-Sullivan, S. J., Kotila, L. E., Jia, R., Lang, S. N., & Bower, D. J. (2013). Comparisons of levels and predictors of mothers' and fathers' engagement with their preschool-aged children. *Early Child Development and Care*, *183*, 498-514.
- Schoppe-Sullivan, S. J., & Mangelsdorf, S. C. (2013). Parent characteristics and early coparenting behavior at the transition to parenthood. *Social Development*, *22*, 363-383.
- Schoppe-Sullivan, S. J., Mangelsdorf, S. C., Brown, G. L., & Szweczyk Sokolowski, M. (2007). Goodness-of-fit in family context: Infant temperament, marital quality, and early coparenting behavior. *Infant Behavior and Development*, *30*, 82-96.

- Schoppe-Sullivan, S. J., Mangelsdorf, S. C., & Frosch, C. A. (2001). Coparenting, family process, and family structure: Implications for preschoolers' externalizing behavior problems. *Journal of Family Psychology*, *15*, 526-545 .
- Schoppe-Sullivan, S. J., Mangelsdorf, Frosch & McHale, J. P. (2004) Associations between coparenting and marital behavior from infancy to the preschool years. *Journal of Family Psychology*, *18*, 194-207.
- Schoppe-Sullivan, S. J., Weldon, A. H., Claire Cook, J., Davis, E. F., & Buckley, C. K. (2009). Coparenting behavior moderates longitudinal relations between effortful control and preschool children's externalizing behavior. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, *50*, 698-706.
- Scrimgeour, M. B., Blandon, A. Y., Stifter, C. A., & Buss, K. A. (2013). Cooperative coparenting moderates the association between parenting practices and children's prosocial behavior. *Journal of Family Psychology*, *27*, 506-511.
- Stright, A. D., & Bales, S. S. (2003). Coparenting quality: Contributions of child and parent characteristics. *Family Relations*, *52*, 232-240.
- Stright, A. D., & Neitzel, C. (2003). Beyond parenting: Coparenting and children's classroom adjustment. *International Journal of Behavioral Development*, *27*, 31-40.
- Talbot, J. A., Baker, J. K., & McHale, J. P. (2009). Sharing the love: Prebirth adult attachment status and coparenting adjustment during early infancy. *Parenting: Science and Practice*, *9*, 56-77.
- Talbot, J. A., & McHale, J. P. (2004). Individual parental adjustment moderates the relationship between marital and coparenting quality. *Journal of Adult Development*, *11*, 191-205.
- Tremblay, S., & Pierce, T. (2011). Perceptions of fatherhood: Longitudinal reciprocal associations within the couple. *Canadian Journal of Behavioural Science*, *43*, 99-110.
- Van Egeren, L. A. (2003). Prebirth predictors of coparenting experiences in early infancy. *Infant Mental Health Journal*, *24*, 278-295.
- Van Egeren, L. A., & Hawkins, D. P. (2004). Coming to terms with coparenting: Implications of definition and measurement. *Journal of Adult Development*, *11*, 165-178.
- Weissman, S. H., & Cohen, R. S. (1985). The parenting alliance and adolescence. *Adolescent Psychiatry*, *12*, 24-45.

## Coparenting: A Framework for Research of Child-Rearing Families

Michiyo KATO

(Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

Tai KUROSAWA

(Education and Research Supporter, Graduate School of Education, Tohoku University)

Tetsuji KAMIYA

(Associate Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

We overviewed research literature on “coparenting”. We focused on definition of the term, the related factors such as family, parent, child, and marital characteristics which play a role in shaping coparenting quality, and the coparental changes with child development. Coparenting is one of the subsystems in family, which is distinguished from parenting or marital quality. Broadly defined as “a shared activity undertaken by those adults responsible for the care and upbringing of children (McHale & Lindahl, 2011, p16)”, coparenting is a framework which is applicable for understanding of diverse family systems. This framework is valid to identify the triadic family relationships and contributes to the examination of family functioning. In conclusion, future study of Japanese child rearing needs to explore from the perspectives of coparenting interactions.

Key Words : coparenting, child-rearing, family system